

そうです。専業主婦である私には、愛護会という名も初耳でしたのに、事業計画や予算書などもみせていただき、行い届いた管理運営にただ感心するばかりでした。みんなの、この公園に対する愛情が、そくそくと伝わってきます。

ひるがえって、私たちの町にも公園があるはず、一度目を向けてみたいものです。市民のやすらぎの場であり、災害時には大事な避難場所にも指定されている各地域の公園、手入れは、なされているでしょうか。

● 客車はデゴイチ文庫

さて、入山瀬公園の特徴のひとつは、何といてもD51の存在です。

蒸気機関車D51は、昭和52年にここに運ばれました。自由にさわったり乗ってみることも出来、国鉄OB会の手入れによりびかびかです。さすがに本物の美しさといおうか、その重厚な姿は昔の日本家屋をハウフツさせるようななつかしさと、にふい



蒸気機関車D51の前で取材中の長島さん

輝きがありました。

客車は、なんとデゴイチ文庫という図書館に改造され、車内には約1,400冊の本が陳列されています。冷暖房に電話、水洗トイレの設備も整い、こざっぱりした感じでカーテンの色ひとつにしても細やかな心づかいがみられて好感がもてました。

私は、入山瀬公園愛護会会長の植松さん、梶原さん、小林さんの3人と向かいあってシートに坐り、ほんの少しの間旅の気分を味わいながら、公園のこと文庫のことを聞かせていただきました。



デゴイチ文庫で旅の気分を味わいながら読書

社会科の見学コースにも

入山瀬駅から歩いて2～3分

この人たちを代表とする愛護会があればこそ、公園も文庫も発展を続けていくことだろうと、次に来る時が楽しみになりました。市内小学校の社会科見学のコースにここも入っていると。たまには身延線に乗って入山瀬駅下車徒歩2～3分でSLを見に行くもよし、月、水、土曜の午後1時からと第2日曜午前中開館のSL文庫をのぞいてみるのも良いでしょう。近隣の人々のやすらぎ

の場である公園。緑に囲まれ、ひろばには思いっきり走りまわる子どもがいて、区切ってドッシリ構えるD51があって、文庫もあってここは小さいながらも一つの理想郷といえるかもしれません。ともあれわが富士市は、山麓の自然に恵まれプラス富士山という大きな財産をもっています。それらをバックに各地区にちらばっている小公園のひとつひとつを守り、いつくしみ育てて行くことが私たちの責任でもあり、使命でもあらうと思われま

障害者に働く場を!

つどいで企業に訴える

“ひろげよう障害のり越え働く職場、をテーマに「心身障害者雇用促進運動」が9月1日から30日まで展開されています。

この運動は、障害者の社会参加や雇用促進に対する理解と協力を広く求めていくことが目的。

期間中の9月11日、「障害者の福祉

と雇用を勧めるつどい」が吉原市民会館で開かれ、あいさつに立った三宅一良富士職安所長は、市内の身障者の雇用率は1.58%で全国や県の平均を上回っている。しかし1.50%の法定雇用率を達成していない企業が31%もあるので、是非協力してほしいと訴えました。



あいさつする三宅富士職安所長